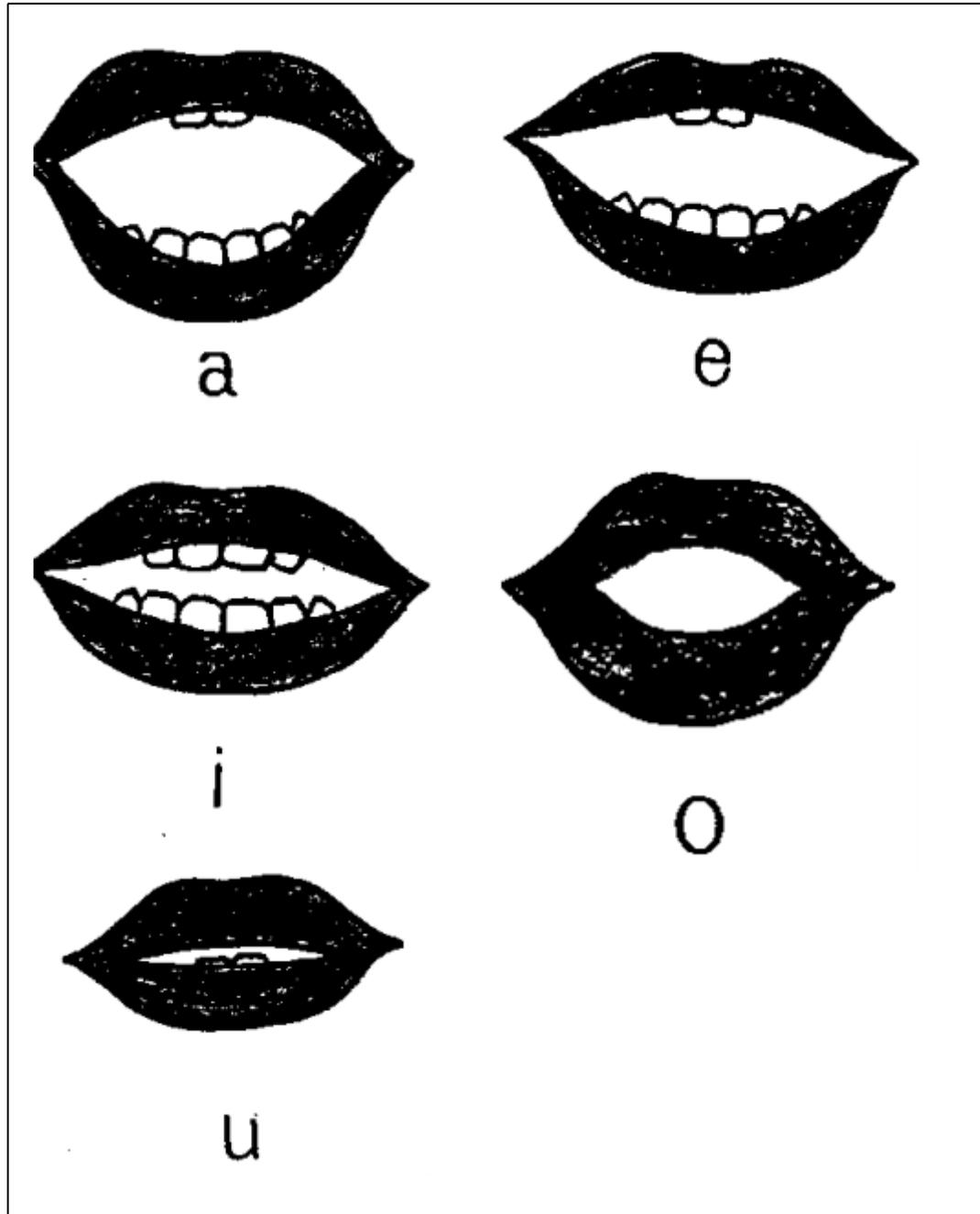


さあ、いよいよ清音の指導です。  
 じっくり あせらず ていねいに



## 2(1).清音の指導

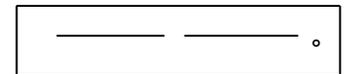
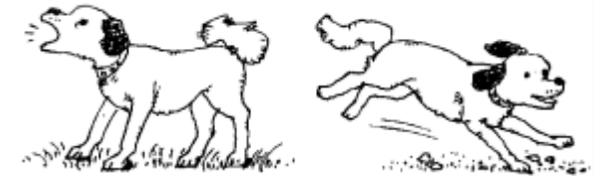
あ行 5 時間 か、さ、た、な、は、ま、ら行 28 時間 (各 4 時間)  
 や、わ行 (各 3 時間) 6 時間 『ん』 1 時間  
 まとめ 3 時間 \* 習った音の読みの教材も入れながら

### い の指導

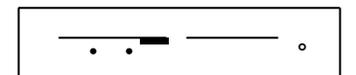
- めあて ・文、たんごの中から、『い』の音を取り出し、正しく発音する。
- ・ 『い』の音の書き表し方を知る。
- ・ 『い』の音を使ったたんご集めや文づくりができるようになる。

絵を提示する。

- ・ 何がどうしていますか。  
 「いぬが はしって います。」  
 「犬が走る」は、いくつのたんご  
 でできた文かな？切れるところ  
 で、「ちょきん。」と言ってね。  
 「いぬが(ちょきん)はしる(まる)」  
 文の線をひくよ。



- ・ 「いぬが はしる。」という文は、「いぬが」と「はしる」に分けることができたね。初めのたんごを見ていくよ。  
 「が」がついている。  
 「が」はくっつきです。
- ・ よく覚えていたね。文の中に入ると、くっつきがついたたんごがあったね。この最初の線のたんごだけ言えるかな。  
 いぬです。  
 「いぬ」は、いくつの音でできているでしょう。口びるの前に手をおいて、息が何回かかる  
 か、たしかめましょう。手をたたきながら、「いぬ」と言ってみましょう。  
 「い(パチ)ぬ(パチ)」  
 2つの音です。



線の下に「いぬ」と言いながら、ボタンを2つ書く。

2つのボタンのうち、今日勉強する『い』音は、どこにありますか。

初めにあります。

白チョークで書いたボタンの左のボタンを赤ボタンにして、たんごの中の「い」の音の場所をたしかめる。

今日は、『い』の音を勉強するよ。『い』と言ってみましょう。

・口の形は、どうなっていますか。

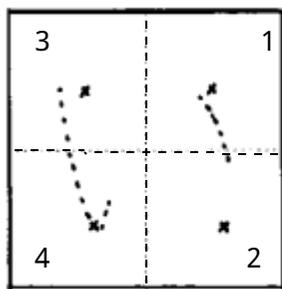
横に開いています。

・べろの位置は？(指をつっこんでしらべてもよい。)

べろの先が下の歯ぐきにくっいています。

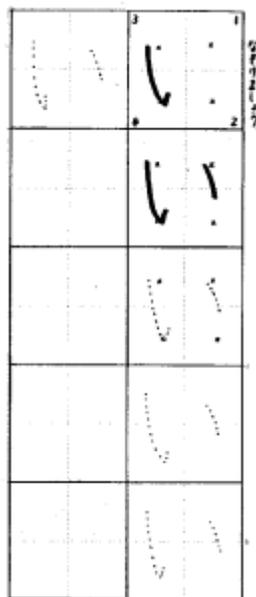


い



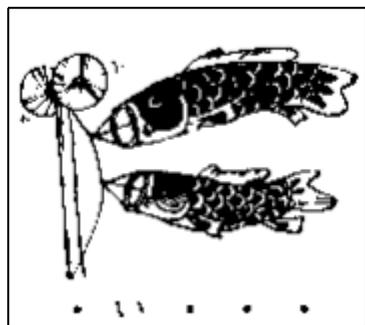
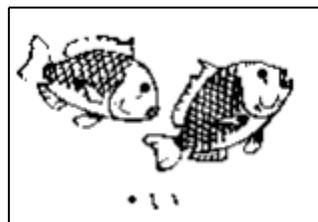
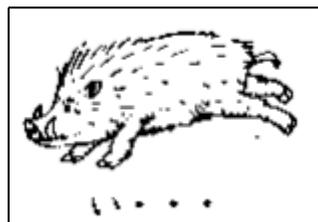
『い』の文字を練習します。3の部屋のおへそから、すこしふくらませて、4の部屋のおへそで止めて、はねる。1の部屋のおへその下から1と2の壁を越えて少しいって止める。

1つの鱧をつのへやにわけ、1~4の番号を入れる。それぞれのへやのまん中を「おへそ」という。点線は、かべといった。

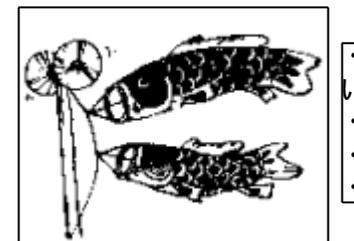
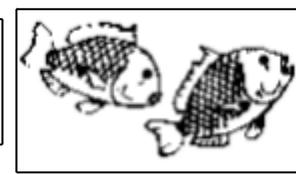
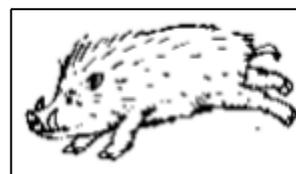


- ・プリントをなぞりましょう。先生といっしょに書きましょう。
- ・今度は、おへそがあるつもりで書きましょう。

『い』のつくたんごの絵カードを提示。これは何ですか。習った文字を使って、書いてみましょう。



絵カードの下に、たんごを書くだけでなく、たんごを書いた短冊を貼り付ける活動を取り入れたこともあった。



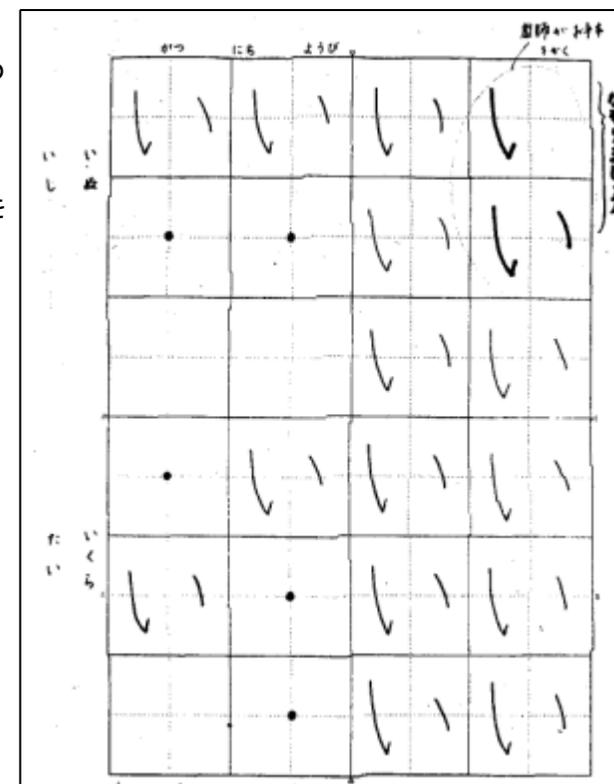
- ・プリントにたんごを書きましょう。
- ・ほかに、どんな『い』のつくたんごを知っていますか。『い』のつくたんごを使った文(最初に作った文)を読みましょう。いぬが はして います。
- ・今日は何という文字を学習しましたか。『い』
- ・その文字はどこにありましたか。

文の最初。

いぬというたんごの中。

- ・『いぬ』という二つの音の初めの音だね。

学習が進めば、新たな絵(たとえば、たいがおよく絵)を提示して文作りをすることもできる。



宿題ノート(右図)

ノートを使い始めたばかりの時は、お手本を印刷して配ります。慣れてくると、文字だけ書き、最初の2行は、文字の練習、のころは、単語集めや文作りにあてるようにします。

「あ行」のまとめについて

あいうえおは、五階建てのアパートに住んでいます。一番上の五階には何さんが入るでしょう。(と言って、下のような絵を提示します。)

- 『あ』さん。
- ・四階には何さんが入るでしょう。
- 『い』さん
- ・三階には『う』さん
- ・二階には『え』さん
- ・一階には『お』さん

模造紙で作った教室掲示用の紙

た さ か あ  
行 行 行 行 紙の色を段ごとに分ける

.....

						あ		あ段(ピンク)
						い		い段(黄)
						う		う段(水色)
						え		え段(オレンジ)
						お		お段(黄緑)

習った文字を貼っていく

『あ』『い』『う』『え』『お』のつくたんごあつめをして、発表ごとにボタンと文字を使

って板書します。また、習った文字で読める読み物をいっしょに読みます。

か行からのまとめは、お母さんの音を手がかりに模造紙で作っていきます。50音図の表のなかに文字を貼って確かめていきます。

「はらい」と「とめ」について

「あ」「う」「お」などの「はらい」でおわる文字は、書く速さが要求されるにつれ、そのうちに「はらい」になっていくと予想されます。そこで、字形を最後まできちんと整えて書かせるために、「とめ」で指導します。文字自体を書いたことがない子どももたくさんいるこの時期に、「はらい」や「とめ」を厳密に要求することは困難だと思われまます。「できる子」のための指導になってしまいそうです。まずは、字形を確実に子どもたちに獲得させることを優先したいものです。

保護者から、この点についての疑問が出されることもあります。その時には、誠実にこうした指導の意図を説明しましょう。

か の指導

『か』行からは、1時間2文字扱う。(か、きく、けこ、そしてまとめに1時間)

『か』行からは、1行あたり4時間で指導。

『か』の指導では、絵を提示して文を作るのではなく、動作を見て文を作ることも取り入れるとよい。名前に『か』のつく人の中から一人前に出てもらい、せなかをかくという動作をしてもらうこともできる。提示された絵だけでなく、動きを見て文を作ることも取り入れていくと作文指導にもつながる。

動作をする。

- ・だれがどうしましたか。

「かなさんがせなかをかきました。」

「かなさんがせなかをかく」は、いくつのたんごでできた文ですか。切れるところで、「ちょきん。」と言ってね。

「かなさんが(ちょきん)せなかを(ちょきん)かく(まる)」

文の線をひくよ。

くつつきをとって、たんごだけ読んでみよう。



かなさん せなか かく

いくつの音でできたたんごか調べよう。

かなさん 4つ

せなか 3つ

かく 2つ

今日学習する『か』の音はどこにあるか見つけよう。

かなさん 一番初めにある。

せなか 最後にある。

かく 初めにある。

『か』のおかあさんの音は

『あ』

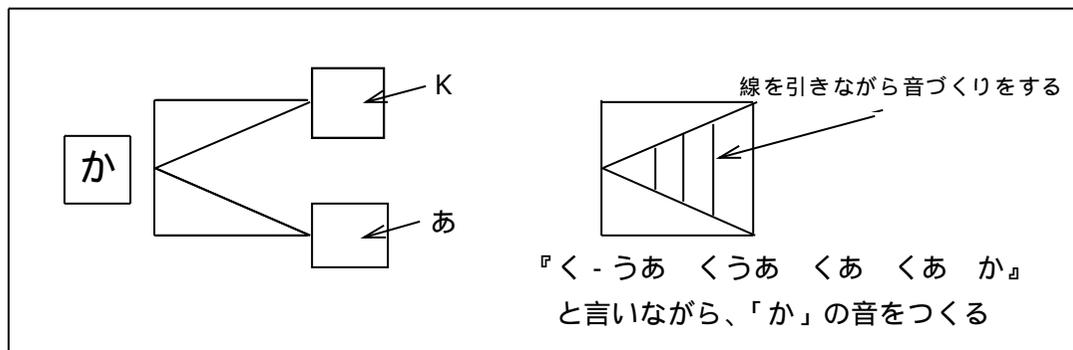
『あ』と言う直前の口(口構え)で止めてみよう。

どんな音ができたかな。

「k」という音だよ。

はたの右上に「k」を書き、右下におかあさんの音の「あ」を書く。「k あ」を言う速さを速くしていく。「k う あ」「k あ」「k あ」「くあ」「か」と、5回の発音で

音を作る。

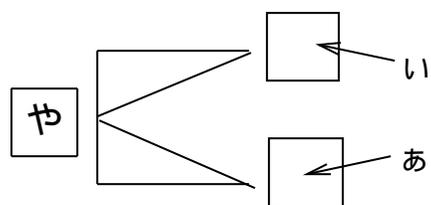


文字の指導（プリントを使って）  
 たんごあつめ  
 文づくり

や行の学習のときも、『や』の音作りをする。

『や』のおかあさんの音は 『あ』  
 『や』というときの口は 『い』  
 『い』の口をして『あ』と言うと『や』の音ができるね。

同様に『ゆ』『よ』についても音作りをする。



子音の指導では、その音を延ばして母音を確かめるだけでなく、どんな口がまえで母音を言うのか、子音を探し、子音と母音を組み合わせながらの音作りもできる。学習した音を 50 音図の中でたえず確認していく。

### かな文字指導と作文指導

先に述べているように、かな文字指導は単なる文字指導ではなく、国語科が扱うべき学習内容全体の基礎を培う指導です。その中で、文の指導をとおして、初歩的、基礎的な作文指導を進めます。なぜなら、「ことば」は生活から離れたものではなく、生活に密着し、自分を表現する（現実を反映する）ものだからです。入門期の段階では、次のような作文指導をやっていくことをおすすめします。

- 口頭作文 休み時間のおはなし（ついさっきしたこと）  
 えんそくのおはなし（遠足の絵を見ながら話す）  
 きのうのこと（月曜日に、きのう、家でしたことを聞く）など  
 絵や文で書く 『こんな ことが あったんだよ』  
 プールであそんだこと  
 絵をいっしょにかくことで、その時のできごとを具体化する。  
 生活科との関連 （絵と文で書くかんさつカード）  
 あさがおの たね ふたば ほんば つる つぼみ 花 など

実際のこと・できごとに対応した文を数多く書く（話す）ことが大切です。

